

## 【報 告】

# 消費者問題講義のアンケート調査報告 —授業評価と教育効果—

福田 進治・加藤 徳子

## はじめに

2012年に消費者教育推進法が施行されて以来、「消費者市民社会の形成」をスローガンとして、全国で消費者教育推進の取り組みが進んでいる。同法の施行以前は、消費者教育は立場の弱い消費者を消費者被害から守るための啓発活動にすぎないと見なされがちであったが、同法では、公正かつ持続可能な社会の形成のために消費者が積極的に役割を果たすことが提起され、そのような消費者の役割の重要性について理解と関心を深めるために消費者教育が必要であるとされた。さらに、消費者教育の推進のために、国、自治体、消費者団体、教育機関、事業者などが各々の役割を果たすことが求められた。こうした法律の施行は、わが国の消費者教育の取り組みのベースアップをもたらした。このことが消費者教育に対する人々の関心を高め、消費者教育が扱う領域を広げ、その取り組みを活発化させるきっかけになったことは間違いない。

こうした動きを踏まえて、2014年度より、弘前大学でも人文社会科学部が中心となって消費者教育推進の取り組みを進めてきた。その一環として、2015年度より、全学の教養教育課程において、消費者問題をテーマとする講義を開講してきた。この講義は、地域の消費者問題の専門家に講師を依頼し、消費者トラブルの問題に留まらず、幅広く消費者市民社会の形成に関わる問題について学ぶものである。2016年には、人文社会科学部が青森県消費者協会と連携協定を締結した。この協定により、弘前市を中心とする地域における消費者教育の拠点づくりのために、両組織が協力して取り組むこととなった。さらに、2017年度には、人文社会科学部の専門教育課程において、消費者問題をより専門的・実践的に学ぶための講義の開講を開始した（以下、これらの教養教育と専門教育の講義を「消費者問題講義」と呼ぶ）。

これらの実績が評価され、2020年度、弘前大学は「令和2年度「若年者の消費者教育の推進に関する集中強化プラン」における若年者の消費者教育推進のための実証的調査研究」（文部科学省委託事業）に採択された<sup>1)</sup>。この事業では、消費者問題講義を基軸として、これらの講義の改善を図るとともに、地域との連携による消費者教育の推進に取り組むこととした。具体的には、当該年度の実践に基づき、消費者問題講義の講義録を作成するとともに、従前より実施してきた受講生の評価を確認するためのアンケート調査に加えて、消費者問題講義の教育効果を検証するための事前アンケートと事後アンケートを実施した。また、専門教育の消費者問題講義の一環として、教育学部附

属中学校において模擬授業を実施するとともに、消費者フォーラム in HIROSAKIにおいて研究発表を実施するという形で学修の成果の地域への還元を図った<sup>2)</sup>。

本稿の課題は、2020年度に弘前大学が取り組んだ消費者教育推進事業（文部科学省委託事業）のうち、消費者問題講義に関するアンケート調査の結果を報告し、これらを踏まえて、消費者問題講義に対する受講生の評価（授業評価）と、消費者問題講義を受講したことによる受講生の理解・意識の変化（教育効果）を検証することである。なお、この他の2020年度の事業の成果については、すでに報告書を作成し、公表しているので、そちらを参照されたい<sup>3)</sup>。また、消費者問題講義のアンケート結果の報告としては、2018年に教養教育の消費者問題講義のアンケート調査の結果を発表している<sup>4)</sup>。本稿はこの報告に引き続き、教養教育と専門教育の消費者問題講義について、より多角的な検証を目指したものである。

## 1. 消費者問題講義の概要（2020年度）

先述のとおり、2015年度より、弘前大学では、全学の教養教育課程において、消費者問題をテーマとする講義を開講してきた。これに加えて、2017年度より、人文社会科学部の専門教育課程において、消費者問題をより専門的・実践的に学ぶための講義の開講してきた。このうち、教養教育の消費者問題講義は、初年度の2015年度を除き、前期に開講し、専門教育の消費者問題講義は一貫して後期に開講してきた。すなわち、毎年度、前期に教養教育で基礎的な内容の講義を開講し、後期に専門教育で専門的・実践的な内容の講義を開講するという形をとってきた。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、教養教育の講義も後期に開講することとなり、結果的に教養教育と専門教育の講義を後期に同時並行的に開講することとなった。また、そのうち何回かの講義はオンラインによって開講することとなった。

2020年度の教養教育の消費者問題講義は、学部越境型地域志向科目「青森の多様性と活性化－消費者問題の取り組み－」として開講した。この講義は、地域の消費者問題の専門家に非常勤講師またはゲストスピーカーとして講師を依頼し、消費者法、消費者契約、情報メディア、ライフサイクル、消費者志向経営、自然環境、地産地消、食の問題、多文化共生など、消費者市民社会の形成に関わる諸問題について幅広く学ぶことを目指すものである。担当者は、福田進治（人文社会科学部）、保田宗良（同左）、吉村顕真（同左）、加賀恵子（教育学部）、加藤徳子（非常勤講師・消費生活アドバイザー）、坂本久美子（青森県消費生活センター主任相談員）、花田勝彦（さくら法律事務所弁護士）、大西二郎（NACS理事・東北支部長）、斗澤康弘（十和田おいらせ農業協同組合専務理事）、永井雄人（白神自然学校一ツ森校代表）である（敬称略）。2020年度の講義全体の構成、各講義の日程・テーマ・担当者は以下のとおりである。

10/02（金） 第1回 イン트로ダクション（福田）

10/09（金） 第2回 情報メディアと消費者問題（1）（坂本）

- 12/25 (金) 第3回 情報メディアと消費者問題(2)(坂本)<sup>5)</sup>
- 10/23 (金) 第4回 消費者契約をめぐるトラブル(花田)※
- 10/30 (金) 第5回 ライフサイクルの管理と設計(加藤)※
- 11/05 (木) 第6回 消費者志向経営推進の取り組み(1)(大西)※
- 11/13 (金) 第7回 消費者志向経営推進の取り組み(2)(大西)
- 11/20 (金) 第8回 食の安全と青森県の地産地消(斗澤)
- 11/27 (金) 第9回 食と地球環境－食を通して世界を見る－(加賀)
- 12/04 (金) 第10回 青森県の自然環境と持続可能な社会(永井)
- 12/11 (金) 第11回 多文化共生社会の消費行動(1)(加藤)
- 12/18 (金) 第12回 多文化共生社会の消費行動(2)(加藤)
- 01/08 (金) 第13回 消費者問題と消費者法の展開(吉村)※
- 01/22 (金) 第14回 消費者市民社会を考える(福田・保田)
- 01/23 (土) 第15回 消費者フォーラム参加(福田・保田・吉村・加賀・加藤)

ここで、※印は弘前市内の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインによる講義となった回を示す。その他の面接形式の講義を行った際も、感染防止のための配慮が必要となり、グループワークを控えるなど、さまざまな制約が生じた。講義全体は「消費者教育の体系イメージマップ」<sup>6)</sup>を参考に、これに消費者志向経営の内容を追加して構成している。また、第14回は全体のまとめとして、講義の中でワークショップを実施し、第15回は地域の消費者教育活動への参加として、消費者フォーラム in HIROSAKIに参加した。本年度の受講生は全学(人文社会科学部・教育学部・理工学部・農学生命科学部・医学部)の2回生を中心に36名であった。

2020年度の専門教育の消費者問題講義は、経済法律コース・企業戦略コース・地域行動コース特設講義「消費者問題の理論と実践」として開講した。この講義は、地域の消費者問題の専門家と弘前大学の教員の指導の下、消費者問題や消費者市民社会についてより専門的に学ぶとともに、その成果を消費者教育活動の実践という形で地域に還元することを目指すものであり、少人数教育を基本とする講義形式と実習形式を組み合わせた課題探求型の授業としている。また、地域の消費者教育活動に参加するプログラムも盛り込んでいる。担当者は、福田進治(人文社会科学部)、保田宗良(同左)、加藤徳子(非常勤講師・消費生活アドバイザー)である。また、加賀恵子(教育学部)より、附属中学校における模擬講義の指導・調整などの支援を得た(敬称略)。2020年度の講義全体の構成、各講義の日程・テーマ・担当者は以下のとおりである。

- 10/01 (木) 第1回 イントロダクション(福田)
- 10/08 (木) 第2回 消費者問題と消費者市民社会(福田)
- 10/15 (木) 第3回 消費者志向経営とマーケティング(保田)

- 10/22 (木) 第 4 回 多文化共生社会における消費行動 (加藤) ※
- 10/29 (木) 第 5 回 環境・資源問題と消費行動 (加藤) ※
- 11/12 (木) 第 6 回 食品をめぐる諸問題 (加藤)
- 11/19 (木) 第 7 回 グループ別課題研究 (1) (福田・加藤)
- 11/26 (木) 第 8 回 グループ別課題研究 (2) (福田・加藤)
- 11/29 (日) 第 9 回 消費生活フェスタ参加 (福田・保田・加賀・加藤)
- 12/03 (木) 第10回 研究成果の中間まとめ (福田・加藤)
- 12/08 (火) 第11回 附属中学校訪問 (福田・保田・加賀・加藤)
- 12/17 (木) 第12回 課題研究の推敲 (1) (福田・加藤)
- 12/24 (木) 第13回 課題研究の推敲 (2) (福田・加藤)
- 01/21 (木) 第14回 研究成果の最終まとめ (福田・加藤)
- 01/23 (土) 第15回 消費者フォーラム参加 (福田・保田・加賀・加藤)

先と同じく、※印は弘前市内の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインによる講義となった回を示す。その他の面接形式の講義を実施した際も、感染防止のための配慮が必要であった。全体の構成は、第2回～第6回は講義形式で、消費者問題、消費者市民社会、消費者志向経営について学び、第7回～第14回は実習形式で、受講生自身が課題を設定し、調査・研究に取り組みながら、第9回で消費生活フェスタ (青森県消費者協会) に参加、第11回で教育学部附属中学校で模擬授業を実施、第15回の消費者フォーラム in HIROSAKIで研究発表を実施するという形になっている。本年度の受講生は人文社会科学部の2～4回生の7名であった。例年、前期の教養教育の講義を受けた学生が後期のこの講義を受けるケースが見られたが、本年度は教養教育の講義を後期に開講した関係で、そのような学生はいなかった<sup>7)</sup>。

## 2. アンケート調査の概要

先述のとおり、2020年度は、消費者問題講義の開講に合わせて、文部科学省委託事業の一環として、従前より実施してきた受講生の評価を確認するためのアンケート調査 (以下、消費者問題講義アンケート) に加えて、消費者問題講義の教育効果を検証するための事前アンケートと事後アンケート (以下、事前・事後アンケート) を実施した。これらのアンケート調査は、教養教育の消費者問題講義と専門教育の消費者問題講義の両者について各々実施した。なお、これらとは別に、毎学期、弘前大学が全開講科目について統一の形式で実施を求める授業評価アンケートも同時に実施したが、本稿にはこのアンケートに関わる内容は含まれない。

従前より実施してきた消費者問題講義アンケートは、受講生の「授業評価」を把握し、その内容を消費者問題講義の点検・評価・改善のためのデータとして蓄積することを目的とする。このために、受講生に消費者問題講義の内容・方法・理解度・満足度などについて質問している。質問項目



は教養教育の消費者問題講義と専門教育の消費者問題講義の間で共通である。基本的に、受講生全員を対象に、最終回の講義終了後に実施している。ただし、2020年度は教養教育の講義も専門教育の講義も、最終回は消費者フォーラム in HIROSAKI参加としたため、両者とも第14回の講義終了後に実施した。各講義とも全員に近い受講生から回答があった。

消費者問題講義アンケートの実施日と回答者数は以下のとおりである。

教養教育： 消費者問題講義アンケート 実施日 2021/1/22 (金)、回答者数 33名

専門教育： 消費者問題講義アンケート 実施日 2021/1/21 (木)、回答者数 6名

消費者問題講義アンケートの質問項目は、以下の8点である。

問1 あなたの学部と学年を教えてください。

問2 この授業を受けた理由は何ですか？（複数回答可）

問3 この授業の内容は良かったですか？

→ その理由を教えてください。

問4 この授業の方法は適切でしたか？

→ その理由を教えてください。

問5 この授業を受けて、消費者問題に対する理解が深まりましたか？

→ その理由を教えてください。

問6 この授業を受けて満足しましたか？

→ その理由を教えてください。

問7 この授業について、改善すべき点や要望したい点がありましたら、教えてください。

問8 その他、この授業を受けて感じたことや考えたことがありましたら、自由に書いて下さい。

このうち、問1～問6は選択式、問3～問6は5段階の回答、かつ、それらの回答の理由を尋ねる記述式の間を設定した。問7・問8は記述式である。

2020年度に追加的に実施した事前・事後アンケートは、消費者問題講義の「教育効果」を検証することを目的とする。このために、消費者問題講義を受講する前後に、受講生の消費者市民社会に関する学び・理解・実践などについて質問し、それらを比較することとした。質問項目は教養教育の消費者問題講義と専門教育の消費者問題講義の間で共通である。基本的に、各講義の受講生全員を対象に、事前アンケートは第1回の講義終了後、事後アンケートは最終回の講義終了後に実施することとした。ただし、消費者問題講義アンケートと同様、事後アンケートは第14回の講義終了後に実施した。各講義とも全員に近い受講生から回答があった。

事前アンケートの実施日と回答者数は以下のとおりである。

教養教育：事前アンケート 実施日 2020/10/2（金）、回答者数 34名

専門教育：事前アンケート 実施日 2020/10/1（木）、回答者数 7名

事前アンケートの質問項目は以下の4点である。

問1 あなたの学部と学年を教えてください。

問2 今までに消費者市民社会について学んだことがありますか？

→ 1～3の場合、どこで学びましたか？

→ 主にどのようなことを学びましたか？

問3 現在、消費者市民社会について理解していますか？

→ 1～3の場合、主にどのようなことを理解していますか？

問4 現在、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践していますか？

→ 1～3の場合、主にどのようなことを実践していますか？

これらの問はすべて選択式で、問2～問4は5段階の回答、かつ、それらの回答の具体的内容を尋ねる記述式の問を設定した（問2の「どこで学びましたか？」は選択式）。

事後アンケートの実施日と回答者数は以下のとおりである。

教養教育：事後アンケート 実施日 2021/1/22（金）、回答者数 33名

専門教育：事後アンケート 実施日 2021/1/21（木）、回答者数 6名

事後アンケートの質問項目は以下の4点である。

問1 あなたの学部と学年を教えてください。

問2 この授業を受けて、今までより消費者市民社会について学ぶことができましたか？

→ 1～3の場合、主にどのようなことを学ぶことができましたか？

問3 この授業を受けて、消費者市民社会について理解できましたか？

→ 1～3の場合、主にどのようなことを理解していますか？

問4 この授業を受けて、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践したいと思いましたが？

→ 1～3の場合、主にどのようなことを実践したいと思えますか？

これらの問はすべて選択式で、問2～問4は5段階の回答、かつ、それらの回答の具体的内容を尋

ねる記述式の問を設定した。

以上のように、事前アンケートの質問項目と事後アンケートの質問項目は、事前アンケートの問2の付随的な問「どこで学びましたか？」を除き、完全に対応している。従って、両者の結果を比較することによって、教養教育の消費者問題講義と専門教育の消費者問題講義の各々の教育効果がある程度明らかにすることができるだろう。

### 3. アンケート調査の結果(1)―教養教育の消費者問題講義―

#### (1) 消費者問題講義アンケートの結果(授業評価の検証)

教養教育の消費者問題講義の消費者問題講義アンケートは、2021/1/22(金)の第14回の講義終了後に実施し、33名の受講生から回答を得た。以下にその集計結果と特徴的な記述を示す。

#### 問1 あなたの学部と学年を教えてください。

受講生の所属学部の分布と学年の分布(無回答2)は、表1、表2のとおりである。

表1 所属学部の分布

人文	教育	理工	農生	医(医)	医(保健)
6	2	13	7	2	3

表2 学年の分布

1年生	2年生	3年生	4年生以上
2	27	2	0

#### 問2 この授業を受けた理由は何ですか？

受講生の回答の分布は、図1のとおりである。

#### 問3 この授業の内容は良かったですか？

受講生の回答の分布は、図2のとおりである。また、それらの回答の理由に関する特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

##### 1 「とても良かった」の理由

- ・今まで自分があまり考えていなかった消費者と社会の繋がりなどを考える準備ができたから。
- ・自分1人の力では知ることが難しいような内容(海外の事情や各団体の具体的な活動)などを知ることができたから。

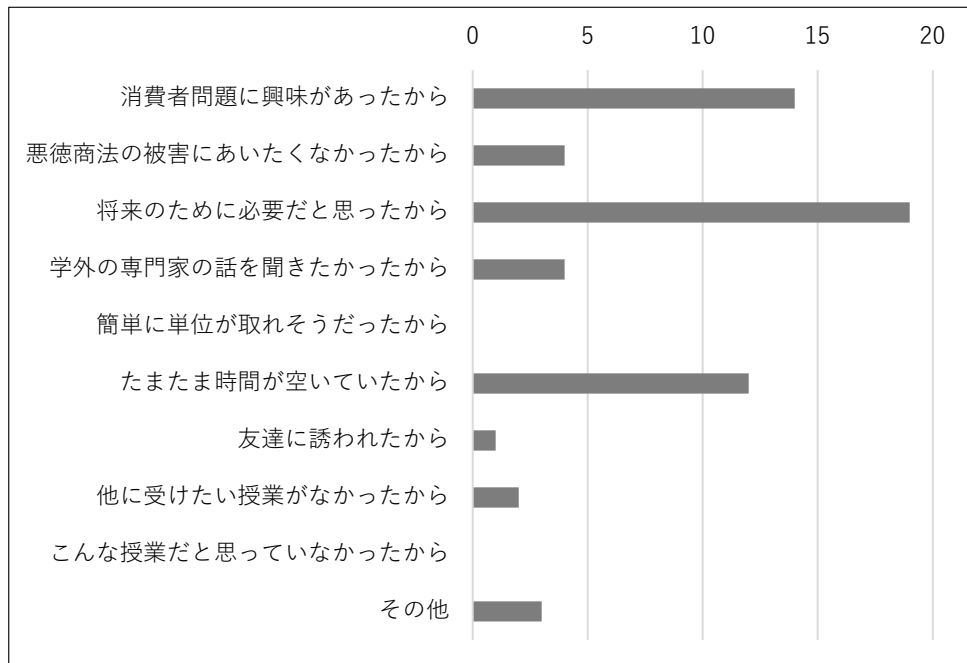


図1 消費者問題講義を受講した理由（複数回答可）

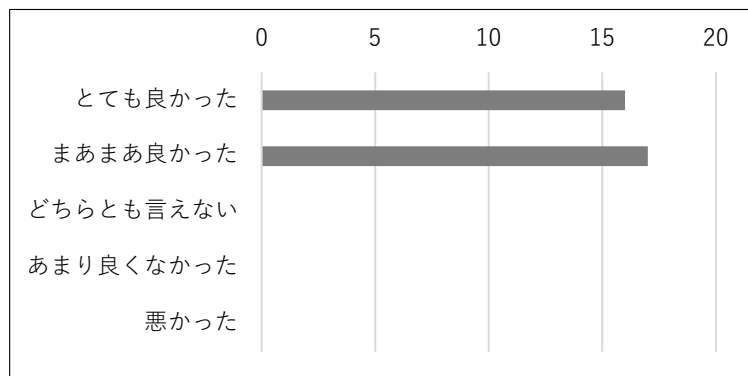


図2 消費者問題講義の内容

## 2 「まあまあ良かった」の理由

- もともと知りたかったクレカについてや消費に関するトラブルがあったときにどのようにするべきかを学べただけでなく、自分の消費行動についてしっかりと考える場が設けられたから。
- 学外の専門家の人からの話があり、その人たちからしか聞けないことを知ることができたから。
- 一口に消費問題といっても身近なものから世界規模のものまで様々であったため、講義を受ける中で視野を広げることができたように思うため。



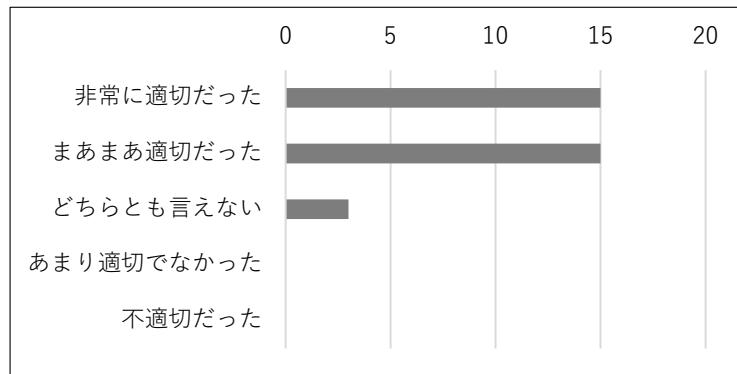


図3 消費者問題講義の方法

#### 問4 この授業の方法は適切でしたか？

受講生の回答の分布は、図3のとおりである。また、それらの回答の理由として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

##### 1 「非常に適切だった」の理由

- ・外部の講師の方々の貴重なお話を聞くことができるだけでなく、グループワークを通して更に理解を深めることができたため。

##### 2 「まあまあ適切だった」の理由

- ・様々な人を呼んで話を聞くことができより多角的にものを捉えられたから。

##### 3 「どちらともいえない」の理由

- ・400字のコメントを毎回書いてもフィードバックがなかったから。
- ・コロナウイルスの影響でグループワークしにくかったと感じたから。
- ・感想を書く時間が足りない、適切な時間・字数設定にしてほしい。

#### 問5 この授業を受けて消費者問題に対する理解が深まりましたか？

受講生の回答の分布は、図4のとおりである（無回答7）。また、それらの回答の理由として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

##### 1 「とても理解が深まった」の理由

- ・様々な専門家の方に来て頂いて、多角的に消費者問題について触れることができたから。
- ・自分の身近なところにたくさん消費者問題があって全く関係していないわけではないということがわかったから。

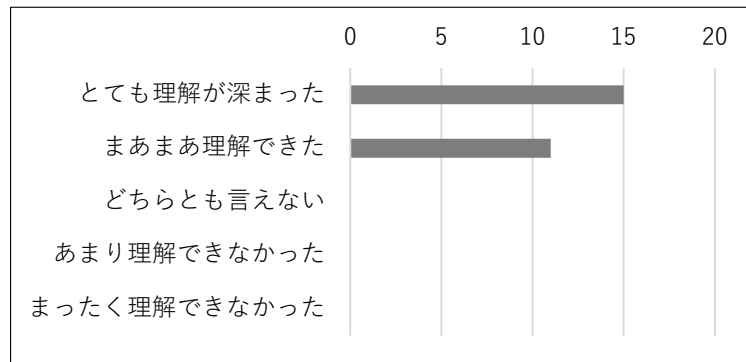


図4 消費者問題に対する理解の深まり

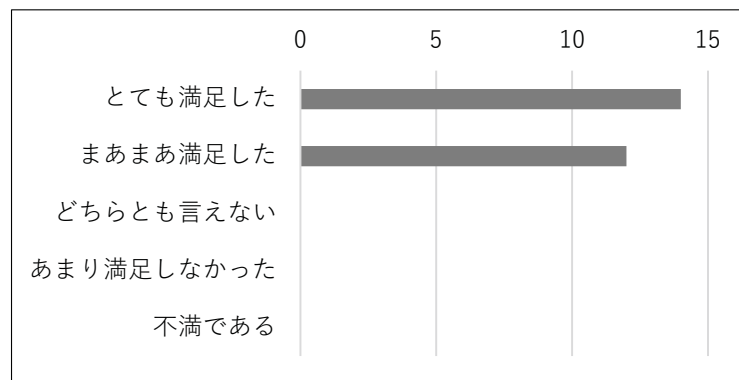


図5 消費者問題講義の満足度

#### 問6 この授業を受けて満足しましたか？

受講生の回答の分布は、図5のとおりである（無回答7）。また、それらの回答の理由として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

##### 1 「とても満足した」の理由

- 自分の将来、または自分の身の回りの人の役に立つ話が非常に多かったため。
- 様々な専門家の方のお話を聴くことができ、1人の先生では成し得ない授業ができていたから。  
また、グループワークを盛んに行なうことで授業のテーマについてより多くの知識や考え方を得られたから。

##### 2 「まあまあ満足した」の理由

- 色々な視点からの消費者問題を知ることができ、自分や友達、家族なども守れるような知識を得られたから。

問7 この授業について改善すべき点や要望したい点ありましたら、教えてください。

受講生による特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

- 消費者問題に関してもっと視覚的なデータが欲しかった。
- 法律系の内容は少し難しくて理解することが厳しい。感想を書くところがワードじゃないから字数がわかりにくくて書きにくい。
- フェアトレードについて詳しく知りたい。

問8 その他、この授業を受けて感じたことや考えたことがありましたら、自由に書いて下さい。

受講生による特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

- 今までなんとなく消費行動をしていたが、今回の講義を活かして考えて消費を行いたい。
- とても充実していて面白い授業でした。
- 今まで自分の考えていた事や、それ以外の部分で新たに気付かされることが多かったように感じます。
- 自分で気をつけないければならないことが見えて、とてもためになる授業でした。小中高でも実施して欲しいと思いました。

## (2) 事前・事後アンケートの結果（教育効果の検証）

教養教育の消費者問題講義の事前アンケートは、2020/10/2（金）の第1回の講義終了後に実施し、34名の受講生から回答を得た。同じく事後アンケートは、2021/1/22（金）の第14回の講義終了後に実施し、33名の受講生から回答を得た。以下にそれらの集計結果と特徴的な記述を、両者を比較できるような形で示す。

表3 所属学部の分布

	人文	教育	理工	農生	医(医)	医(保健)
事前	8	2	13	6	2	3
事後	6	2	13	7	2	3

表4 学年の分布

	1年生	2年生	3年生	4年生以上
事前	2	30	1	1
事後	2	28	2	0

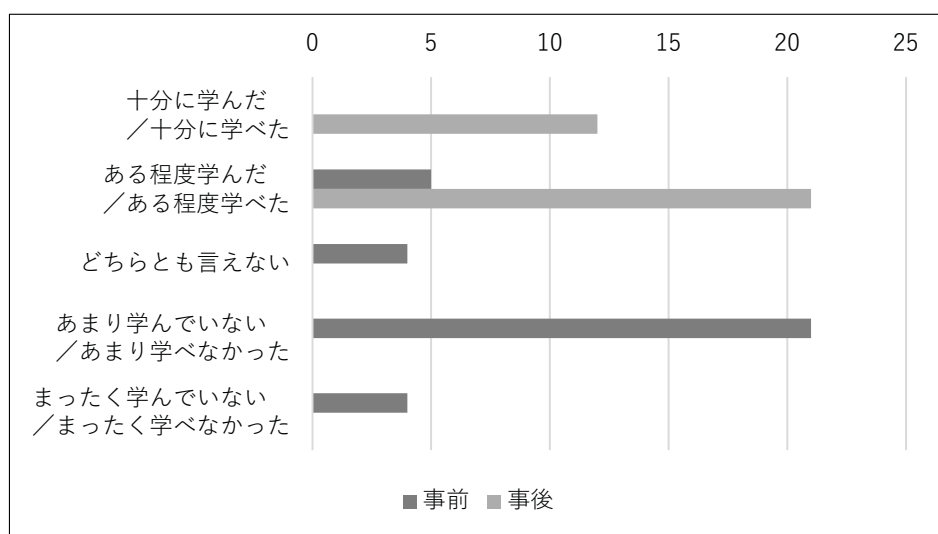


図6 消費者市民社会についての学び

表5 消費者市民社会について学んだ場所（複数回答可）

小学校	中学校	高校	家庭	地域	その他
0	11	8	0	0	0

問1 あなたの学部と学年を教えてください。

受講生の所属学部の分布と学年の分布は、表3、表4のとおりである。

問2 今までに消費者市民社会について学んだことがありますか？〔事前〕／この授業を受けて、今までより消費者市民社会について学ぶことができましたか？〔事後〕

受講生の回答の分布は、図6のとおりである。また、今までに「どこで学びましたか？」に対する回答は、表5のとおりである。他方、この講義を受けて「主にどのようなことを学ぶことができましたか？」に対する回答として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

（この講義を受けて）

- SDGsという考えのもと持続可能な社会の形成のために様々な取り組みをしていること。そのなかで私たちがすぐに実践できることについて考えたこと。
- 消費者1人1人の行動が消費者問題を改善することに繋がるため、消費生活における知識を学ぶことが大切であること。

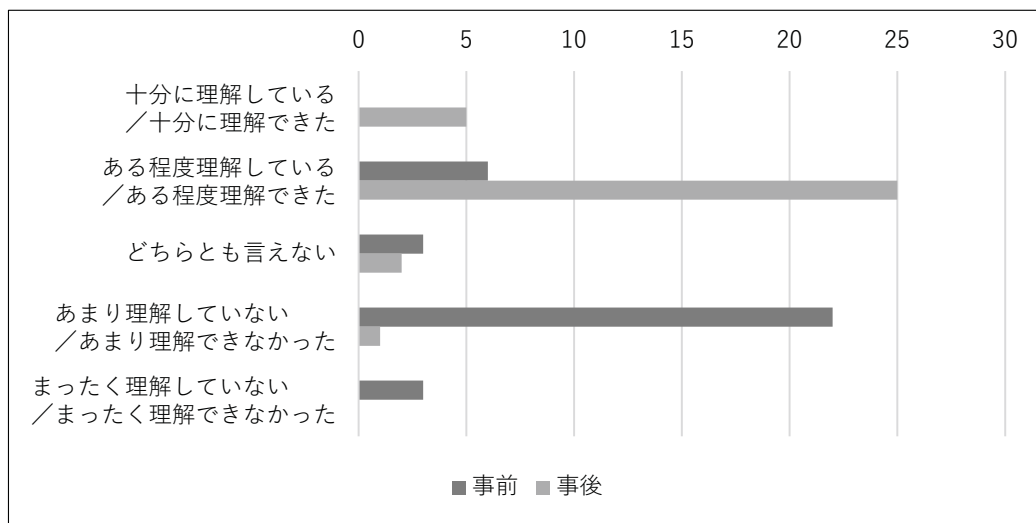


図7 消費者市民社会についての理解

**問3 現在、消費者市民社会について理解していますか？〔事前〕／この授業を受けて、消費者市民社会について理解できましたか？〔事後〕**

受講生の回答の分布は、図7のとおりである。また、この講義を受けて「主にどのようなことを理解していますか？」に対する回答として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

（この講義を受けて）

- ・消費者1人1人が自分の及ぼす影響を意識し、国内外の問題に関心を持ち行動を変容することで社会の改善につながれること。
- ・消費者市民社会とは、我々市民と社会環境（企業や政府などを含め）が相互に関わって形成されるものであるため、他人事だと思わず、積極的に行動していくことが重要であるということ。

**問4 現在、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践していますか？〔事前〕／この授業を受けて、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践したいと思いませんか？〔事後〕**

受講生の回答の分布は、図8のとおりである。また、この講義を受けて「主にどのようなことを実践したいと思いませんか？」に対する回答として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

（この講義を受けて）

- ・消費者問題というと、クーリングオフやマルチ商法などといった身近なことばかりだと思っていましたが、世界規模の問題もあることがわかったため、離れた場所に住む人々のことを考えた消費生活を行ないたいと思いました。



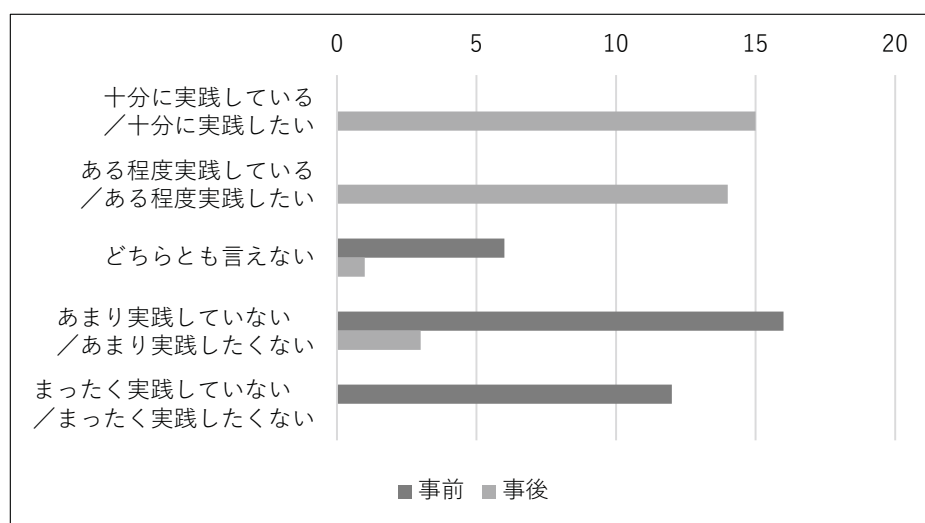


図8 消費者市民社会の形成のための取り組み

- 実践したことだが、インスタグラムでフェアトレードチョコレートの写真を「#エシカル消費」をつけて投稿した。このようなSNSでの情報発信を行っていきたい。
- 自分がすぐ出来ることとして、フェアトレード商品の購入と企業理念の理解があると思うので実践していききたい。

#### 4. アンケート調査の結果（2）—専門教育の消費者問題講義—

##### （1）消費者問題講義アンケートの結果（授業評価の検証）

専門教育の消費者問題講義の消費者問題講義アンケートは、2021/1/21（木）の第14回の講義終了後に実施し、6名の受講生から回答を得た。以下にその集計結果と特徴的な記述を示す。

##### 問1 あなたの学部と学年を教えてください。

受講生の所属学部の分布と学年の分布は、表6、表7のとおりである。

表6 所属学部の分布

人文	教育	理工	農生	医（医）	医（保健）
6	0	0	0	0	0

表7 学年の分布

1年生	2年生	3年生	4年生以上
0	2	3	1

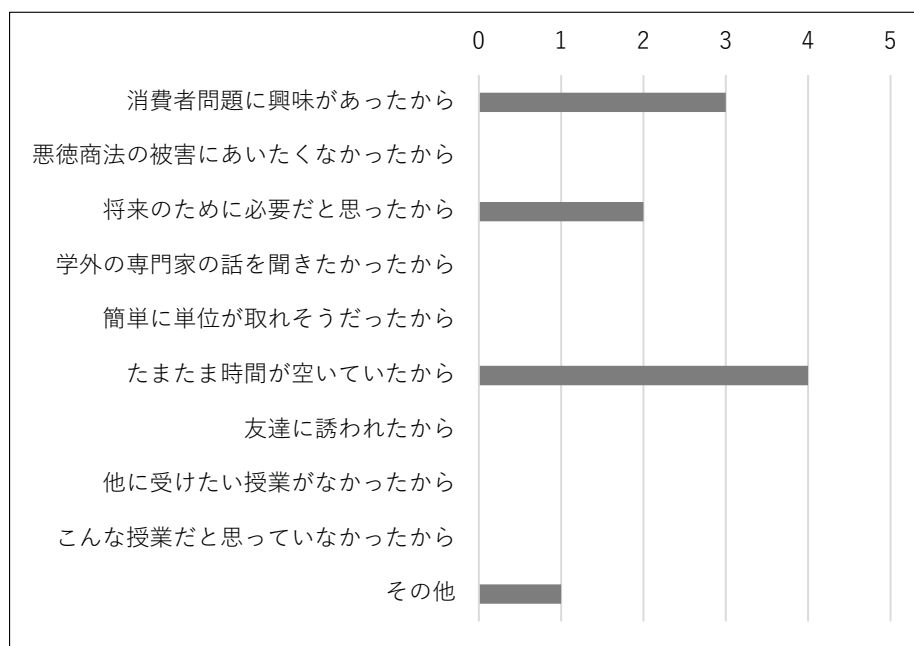


図9 消費者問題講義を受講した理由（複数回答可）

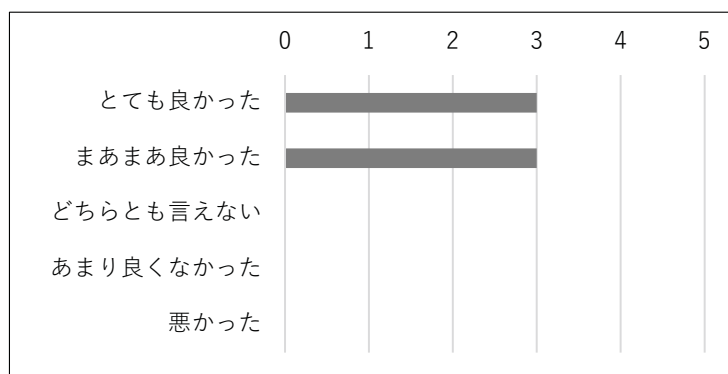


図10 消費者問題講義の内容

問2 この授業を受けた理由は何ですか？

受講生の回答の分布は、図9のとおりである。

問3 この授業の内容は良かったですか？

受講生の回答の分布は、図10のとおりである。また、それらの回答の理由として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

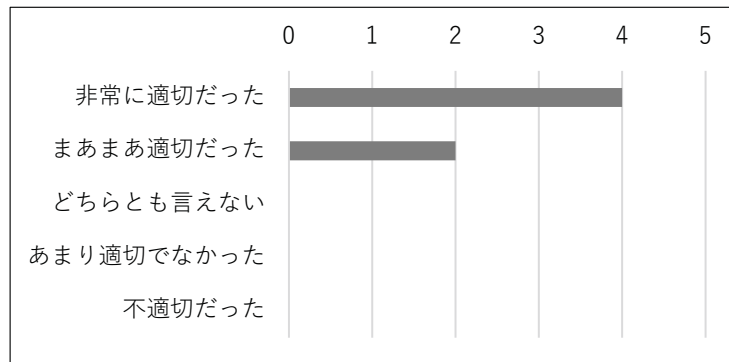


図11 消費者問題講義の方法

#### 1 「とても良かった」の理由

- 最初は時間が空いていたから受講してみようくらいの気持ちだったが、テーマを決めて深く調査することができて、消費者問題に対する関心の糸口となったから。

#### 2 「まあまあ良かった」の理由

- 消費者問題が当事者同士だけでなく解決できるものもあれば、社会や環境に影響しているものもあることを初めて知った。自身の「消費……」における知識が広まった。

### 問4 この授業の方法は適切でしたか？

受講生の回答の分布は、図11のとおりである。また、それらの回答の理由として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

#### 1 「非常に適切だった」の理由

- フォーラムや附属中学校への参加は大変だったが、その分、得るものは多かったと思うから。
- 座学だけでなく、実際にイベントに参加したり、授業をすることで、より深く知識を身につけられたから。
- 少人数での調査活動だと個人の仕事量が増え、学ぶ量も増える。

#### 2 「まあまあ適切だった」の理由

- 消費者問題について、知識をインプットした後にアウトプットする授業構成がよかった。より深く学ぶことができたと思った。

### 問5 この授業を受けて消費者問題に対する理解が深まりましたか？

受講生の回答の分布は、図12のとおりである。また、それらの回答の理由として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

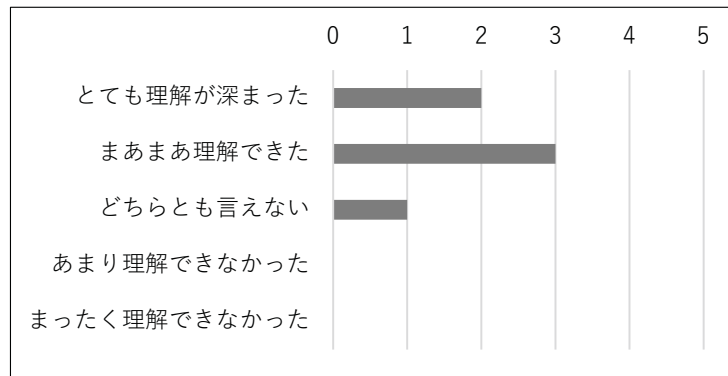


図12 消費者問題に対する理解の深まり

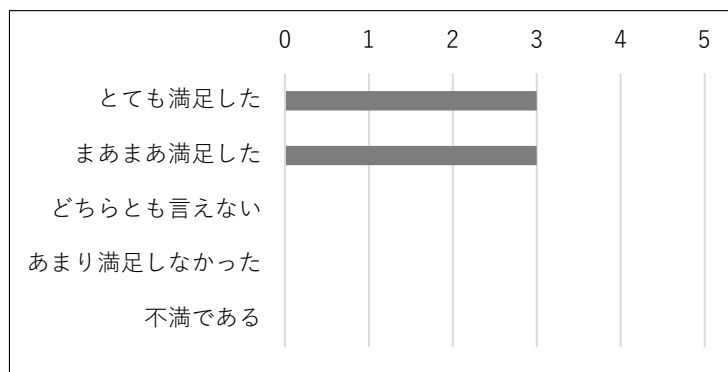


図13 消費者問題講義の満足度

1 「まあまあ理解できた」の理由

- 衣、食、住など様々な分野の消費者問題を学んだが、まだまだ知らない部分もあると思うから。

問6 この授業を受けて満足しましたか？

受講生の回答の分布は、図13のとおりである。また、それらの回答の理由として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

1 「とても満足した」の理由

- 今後の人生もずっと消費しつづけていくので、その上で気をつけるべきことを学べたから。

問7 この授業について改善すべき点や要望したい点ありましたら、教えてください。

受講生による特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

- ワーク制作の期間のわりに、それを公表する表舞台が大きすぎる気がします。プレッシャーです。終電を逃すことが多くて困りました。授業外でやることが多いので授業内でどうにか形にできるように収まらないでしょうか？同じ授業を受ける人間の質にそのまま成果物のクオリティが反映されてしまう気がします。一人一人自由に調べて身内だけで処理したい。
- 中学生に対する発表の心がまえとか基礎の授業を少し設けて頂きたかった。

**問8 その他、この授業を受けて感じたことや考えたことがありましたら、自由に書いて下さい。**  
受講生による特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

- 消費者問題を考える機会となり、大きく成長できたと思う。感謝しています。
- 自分たちより年齢と学年が下の人たちにものを教える経験ができたことが最も良いことだと思いました。

## (2) 事前・事後アンケートの結果（教育効果の検証）

専門教育の消費者問題講義の事前アンケートは、2020/10/1（木）の第1回の講義終了後に実施し、7名の受講生から回答を得た。同じく事後アンケートは、2021/1/21（木）の第14回の講義終了後に実施し、6名の受講生から回答を得た。以下にそれらの集計結果と特徴的な記述を、両者を比較できるような形で示す。

**問1 あなたの学部と学年を教えてください。**

受講生の所属学部の分布と学年の分布は、表8、表9のとおりである。

**表8 所属学部の分布**

	人文	教育	理工	農生	医（医）	医（保健）
事前	7	0	0	0	0	0
事後	6	0	0	0	0	0

**表9 学年の分布**

	1年生	2年生	3年生	4年生以上
事前	0	3	3	1
事後	0	2	3	1



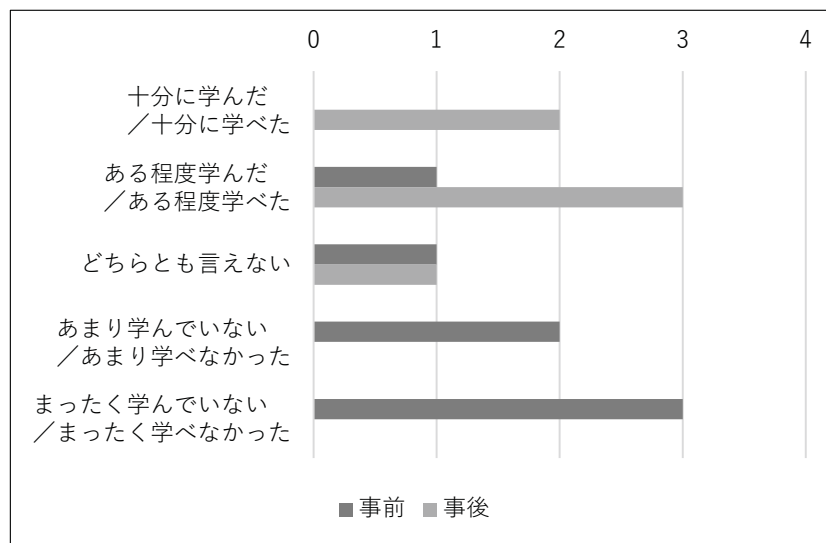


図14 消費者市民社会についての学び

表10 消費者市民社会について学んだ場所（複数回答可）

小学校	中学校	高校	家庭	地域	その他
0	0	2	0	0	0

問2 今までに消費者市民社会について学んだことがありますか？[事前]／この授業を受けて、今までより消費者市民社会について学ぶことができましたか？[事後]

受講生の回答の分布は、図14のとおりである。また、今までに「どこで学びましたか？」に対する回答は、表10のとおりである。他方、この講義を受けて「主にどのようなことを学ぶことができましたか？」に対する回答として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

（この講義を受けて）

- 自分たちの調査テーマであった「ファストファッション」について、背景に潜む問題を理解することができた。
- 普段は意識してなかった消費者問題が身近にあることであり、どのような問題があるのか、自分たちは何ができるのかを学んだ。

問3 現在、消費者市民社会について理解していますか？[事前]／この授業を受けて、消費者市民社会について理解できましたか？[事後]

受講生の回答の分布は、図15のとおりである。また、この講義を受けて「主にどのようなことを理解していますか？」に対する回答として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

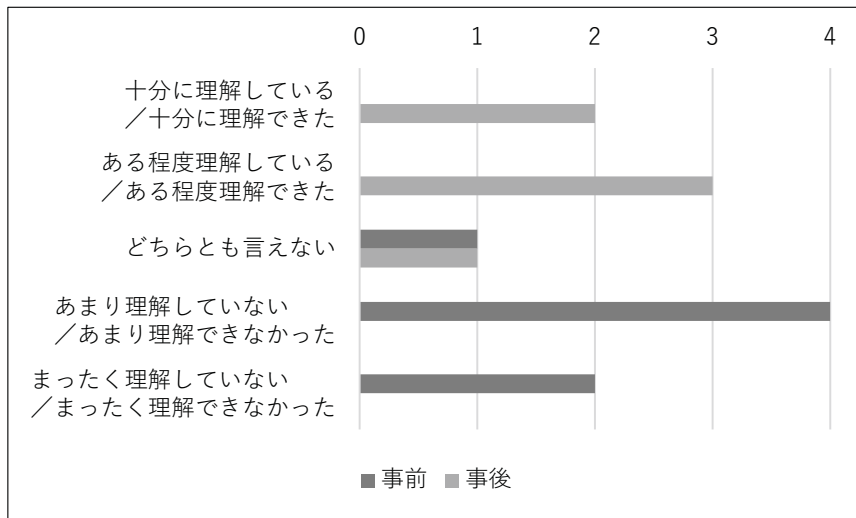


図15 消費者市民社会についての理解

(この講義を受けて)

- 消費者自身もこの問題について知って行動することが求められていること。
- よりよい社会をつくるために私たち消費者自身が努力していかなければならないこと。
- ひとりひとりが自分ごととして問題意識をもてるようになればいい。

**問4 現在、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践していますか？ [事前]／この授業を受けて、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践したいと思いませんか？ [事後]**

受講生の回答の分布は、図16のとおりである。また、現在（この講義を受ける前に）「主にどのようなことを実践していますか？」、この講義を受けて「主にどのようなことを実践したいと思いますか？」に対する回答として特徴的な記述を抜粋すると、以下のとおりである。

(この講義を受ける前に)

- ネットでニュース記事を読んでいるが、消費者市民社会の形成のための取り組みと言えるかはわからない。
- YouTubeなどで知識を得ようとしている。

(この講義を受けて)

- 自分が服を買うとき、この服がどこで作られたかだけでなく、使われている材料はどこで生産されているのかまでをしっかりと考えていきたい。
- フェアトレード商品を買いたい。
- ボランティアや寄付などの機会があったら参加してみる。
- そもそも問題がおこらないようなシステムや制度をつくったり使いたいと思いました。

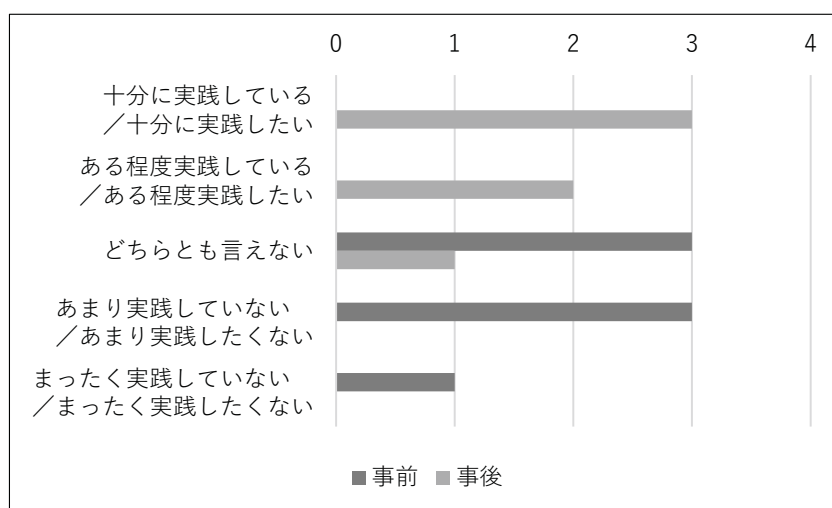


図16 消費者市民社会の形成のための取り組み

## 5. アンケート結果の考察(1)―教養教育の消費者問題講義―

### (1) 消費者問題講義アンケートの考察(授業評価の検証)

教養教育の消費者問題講義に関する消費者問題講義アンケートの結果より、受講生の評価が明らかになった。問2(消費者問題講義の受講理由)の回答より、多くの受講生が当初から消費者問題に関心をもっていたことが分かるが、同時に「たまたま時間が空いていた」を選択した受講生も少なくないなど、多様な動機でこの講義を受講していることが分かる。それにも関わらず、問3～問6(消費者問題講義の内容・方法・理解度・満足度)の回答を見ると、非常に多くの受講生が5段階の回答のうち、上位2段階を選択していることから、多くの受講生がこの講義を全体的に高く評価していることが分かる。各問の記述式の回答より、このような高い評価の主な要因は、複数の地域の専門家に担当して頂いていることと、グループワークなどのアクティブラーニングを取り入れていることであると思われる。また、講義で学んだ内容が自らの生活に関わる身近な問題であることに気付いたことも高評価につながったものと思われる。しかし、問4と問7の回答では、フィードバックの不足や時間配分など、講義の進め方に不十分または不適切な部分があったことが指摘されている。また、新型コロナウイルス感染防止との関係で、受講生がグループワークに支障を感じていたことも分かる。これらの課題については、各担当者がしっかりと受け止めて、工夫と改善に努めていかなければならない。

なお、問5と問6の回答数が明らかに少なくなっている(無回答が7名)。これらの問がアンケート用紙の裏面にあったためであると思われる。アンケート用紙には「裏面もお願いします」と明記していたが(口頭でも注意したが)、気付かなかった受講生もいたようである。

また、受講生の数は36名で、アクティブラーニングを取り入れた講義を実施するためには適度な人数であると思われる。2015年度の開講当初は受講生が少なく、受講生自身も残念に思ってい

たが、その後、この点はクリアできていると言える。

## (2) 事前・事後アンケートの考察（教育効果の検証）

教養教育の消費者問題講義の事前アンケートでは、問2～問4（消費者市民社会の学び・理解・実践）に対して、多くの受講生が5段階の回答のうち、下位2段階の回答を選択しているが、事後アンケートでは、対応する各問に対して、上位2段階の回答を選択している。これらより、多くの受講生が消費者問題講義を受講することを通して、消費者市民社会について理解を深め、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践したいと考えるようになったことが顕著に見て取れる。記述欄を見ても、今後の実践に向けての意識を見ることができる。受講生はこれまでの学校教育の中で消費者問題を学んだという記憶があっても、その内容が消費者市民社会の形成に関わるという明確な意識はなかったのではないかと思われる。しかし、消費者問題講義を受講し、さまざまな方向から消費者問題を学んだことにより、消費者市民社会の形成という課題を明確に意識できるようになり、そのことが実践への意識を育むことになったのではないかと思われる。

しかしながら、問3と問4の回答を見ると、少数ではあるが、消費者市民社会に向けての取り組みについて、下位の番号を選択しており、実践が難しいと回答している。今後とも、消費者問題講義の改善と消費者教育の推進に取り組みたい。

## 6. アンケート結果の考察（2）—専門教育の消費者問題講義—

### (1) 消費者問題講義アンケートの考察（授業評価の検証）

専門教育の消費者問題講義に関する消費者問題講義アンケートでも、問3～問6（消費者問題講義の内容・方法・理解度・満足度）の回答を見ると、ほぼすべての受講生が5段階の回答のうち、上位2段階の回答を選択している。これらより、多くの受講生がこの講義を全体的に高く評価していることが分かる。各問の記述式の回答を見ると、高い評価の主な要因は、自分たちが消費者市民社会について学ぶだけでなく、附属中学校や消費者フォーラムの機会に学びの成果をアウトプットできたことが大きいと思われる。実際、それらの取り組みを通して、より深く学ぶことができたというコメントが見られる。少人数での調査や研究発表は負担も大きいですが、それだけ個人の学習量も大きく、そのことが受講生の理解度や満足度を高めることにつながったものと考えられる。他方、それらの物理的負担や精神的負担が大きかったというコメントも見られる。確かに通常の2単位分の講義としては、かなり負担が大きかったものと思われる。次年度以降もこうした取り組みを継続していきたいと考えているが、受講生の過度な負担にならないよう配慮や工夫が必要であると考えられる。また、講義の中で扱われた消費者問題だけでは不十分で、やや不満足に感じている受講生がいたことも見て取れる。しかし、消費者市民社会に関わる幅広い問題を2単位の講義ですべて扱うことは不可能である。むしろ、これをきっかけに受講生が自ら探求していくよう働きかけていくことが必要であろう。

## (2) 事前・事後アンケートの考察（教育効果の検証）

専門教育の消費者問題講義についても、事前アンケートでは、問2～問4（消費者市民社会の学び・理解・実践）に対して、多くの受講生が5段階の回答のうち、下位2段階の回答を選択しているが、事後アンケートでは、対応する各問に対して、上位2段階の回答を選択している。これらより、多くの受講生が消費者問題講義を受講することを通して、消費者市民社会について理解を深め、消費者市民社会の形成のための取り組みを実践したいと考えるようになったことが顕著に見て取れる。とくに問4の記述式の回答を見ると、事前アンケートの回答では、受講生は消費者問題に関する情報や知識を得ることを重視しているが、事後アンケートの回答では、消費者市民社会の形成のための具体的な行動に言及しており、どのようにすれば消費者市民社会の形成につながるのかを考えるようになったものと考えられる。さらに、消費者問題に個別対応するより、消費者問題を生じないような社会システムを構築するべきであるとの回答も見られ、受講生の考察が大いに深まったものと考えられる。これらより、専門教育の消費者問題講義では、受講生自身が取り組んだ課題研究の内容や経験が今後の実践につながる可能性を見出すことができる。こうした可能性をさらに広げていけるよう、今後とも取り組みを進めていきたい。

## おわりに

弘前大学では、教養教育の消費者問題講義を消費者市民社会の入門編、専門教育の消費者問題講義は消費者市民社会の実践編と位置づけて開講している<sup>8)</sup>。本稿では、消費者問題講義アンケートと事前・事後アンケートの結果に基づいて、これらの講義の授業評価と教育効果を検証したが、その狙いはある程度実現してるものと思われる。すなわち、アンケートの結果より、大部分の受講生がこれらの講義で消費者問題を学んだことに満足し、かつ、これらの講義における学びを通して、消費者市民社会の形成という課題について明確な意識をもつようになったことが分かった。いくつかの些末でない課題が指摘されたが、それらは主に技術的な問題であり、十分に対応可能であると思われる。しかし、ほとんどの受講生は教養教育の消費者問題講義と専門教育の消費者問題講義を連続して受講するわけではない。各々の講義の受講生の人数も決して多くない。それは弘前大学の学生全体のごく一部にすぎない。これらの意味で、これらの講義はあくまで試行段階のモデルであるにすぎない。今後はこれらの講義が全国の大学が参照できるような消費者問題講義の実践モデルと言えるものになるようブラッシュアップを続けていきたい。また、これらの講義を基軸として、今後とも地域との連携による消費者教育推進の取り組みを進めていきたい。



## 謝 辞

消費者問題講義の開講とアンケート調査の実施にあたって、青森県消費者協会、消費者問題講義の担当者、地域の消費者問題・消費者教育の専門家や関係者のみなさまに多大なご支援とご協力を頂戴している。同時に、消費者問題講義の受講生の真摯な取り組みがなければ、消費者問題講義の開講を継続できなかったし、有意義なアンケート調査の結果も得られなかった。とくに2020年度の事業については、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課のみなさまに大変お世話になった。本稿は文部科学省委託事業の成果の一部である。

## 注

- 1) この事業は、弘前大学人文社会科学部と教育学部が中心となり、青森県消費者協会と消費者問題講義の担当者の協力を得て実施したものである。消費者問題講義の講義録の作成、消費者問題講義の事前・事後アンケートの実施、消費者フォーラム in HIROSAKIの開催、消費者問題講義を軸とした高大連携・地域連携の検討他に取り組んだ。
- 2) 消費者フォーラム in HIROSAKIは、2014年度以来、弘前大学人文社会科学部と青森県消費者協会が共催で開催している。2020年度は教育学部が共催に加わり、2021/1/23（土）に弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールで開催し、松葉口玲子氏（横浜国立大学）が基調講演、人文社会科学部・教育学部・青森中央学院大学の学生が実践報告・研究発表、西村隆男氏（消費者教育推進委員会）が講評を行った。
- 3) 2020年度の弘前大学の消費者教育推進事業報告書には、2020年度の消費者教育推進事業の概要、消費者問題講義の講義録（大学における消費者問題講義の実践モデル）、消費者フォーラム in HIROSAKIの報告を掲載している。
- 4) 福田・加藤（2018）では、2015年度～2017年度の教養教育の消費者問題講義の概要とアンケート調査の結果を報告している。
- 5) 第3回講義（坂本）は10/16（金）の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、この日の弘前大学の講義が臨時休講となったため、12/25（金）に延期して開講した。
- 6) 「消費者教育体系イメージマップ」は消費者教育が扱うべき主要な領域として、「消費者市民社会の構築」、「商品等の安全」、「生活の管理と契約」、「情報とメディア」を提示している。
- 7) 消費者問題講義の具体的内容は、2020年度の弘前大学の消費者教育推進事業報告書に掲載された消費者問題講義の講義録（大学における消費者問題講義の実践モデル）を参照されたい。
- 8) こうした点をより明確にするため、2021年度より、教養教育の消費者問題講義は「青森の多様性と活性化—消費者市民社会入門—」、専門教育の消費者問題講義は「消費者市民社会の実践」という科目名で開講している。

## 参考文献

- 消費者教育推進事業報告書編集委員会（編）（2021）『大学における消費者問題講義の実践モデル構築』（2020年度弘前大学人文社会科学部・教育学部消費者教育推進事業（文部科学省委託事業）報告書）
- 消費者教育の推進のための体系的プログラム研究会（2013）「消費者教育の体系イメージマップ—消費者力ステップアップのために」消費者教育ポータルサイト
- 福田進治・加藤徳子（2018）「消費者問題講義の課題と展望」『人文社会科学論叢』4, pp.211-228.